

「クレタ人」



歯科医同士では、よく「保険じゃまともにやってくれない。」という会話がなされます。現に、我が「みな歯科」も歯科保険制度の改善を目指しています。

この「保険じゃまともにやってくれない。」に対して「まともにやってくれないと言いつつ歯医者さんが成り立っているということは、まともにやっていないからだ。」という意見があります。

さて、「まとも」な歯科医が『保険制度は「まとも」ではない。』と言いました。その歯科医がする保険治療は「まとも」ではないのでしょうか？



自己言及のパラドックスの古典として知られるのが、次の嘘つきのパラドックスである。

“ 「クレタ人は嘘つきである」とクレタ人が言った。 ”

なお、この発言をしたクレタ人はエピメニデスであるとされる。

ここでクレタ人（エピメニデス）自身が「クレタ人は嘘つき」と言及しているため、パラドックスが発生してしまう。

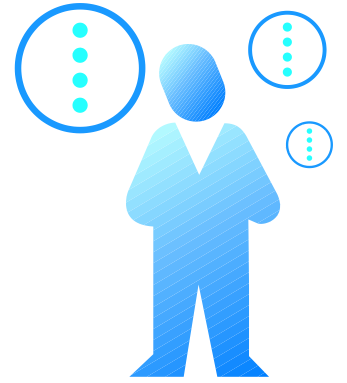
すなわち、

・「クレタ人は嘘つきである」が本当なら、クレタ人であるエピメニデスも嘘つきであるはずで、従って「クレタ人は嘘つきである」という発言も嘘でなければならない。

・しかし「クレタ人は嘘つきである」が嘘なら、クレタ人であるエピメニデスも正直者である事になる。従って彼の「クレタ人は嘘つきである」という発言も本当でなければならない。



クレタ島(Κρήτη)



自己を含めて言及しようとすることで、パラドックスが発生するのです。

「まとも」な歯科医が『保険制度は「まとも」ではない。』と言いました。

実は、これもパラドックスになってしまっているのです。現実には、まともな歯科診療がやりたい歯科医ほど『保険制度は「まとも」ではない。』と言っているように思います。

早く、「まとも」な歯科医が「まとも」な保険制度の下で「まとも」な保険治療（これはパラドックスになりません。）ができるようになればいいですね。



2009/07/07

みんなの歯科ネットワーク

SATO

